

「鳥取県人口ビジョン（案）」、「鳥取県元気づくり総合戦略（案）」への意見の反映状況

平成27年9月11日

とっとり元気戦略課

パブリックコメントや鳥取創生チーム会議における県内市町村及び各民間団体等からのご意見を反映し、「鳥取県人口ビジョン（案）」及び「鳥取県元気づくり総合戦略（案）」を別添のとおり取りまとめました。

1 パブリックコメント、会議の実施状況

(1) パブリックコメント

実施期間：平成27年8月11日（火）～26日（水）

意見の件数：68件・23人

(2) 鳥取創生チーム会議（平成27年8月26日（水）合同会議開催）

各市町村や商工団体、労働者団体、金融機関、大学、マスコミ等を交えた鳥取創生チーム会議を県内3地区で開催し、CCRC、DMOなど地方創生総合戦略に盛り込む今後の新たな取組の勉強会を行うほか、市町村間の広域連携の方向性について意見交換を実施。

(3) とっとり創生若者円卓会議（平成27年7月30日に知事提言）

県内の高校生、大学生や農林水産業、観光事業者、マスコミやNPO等で活躍する若者が一堂に会し、本県の地方創生の方向や必要な施策について5回にわたり意見交換を行い、その結果を提言。

その他、「パートナー県政推進会議」「県政アドバイザースタッフ会議」等において意見交換を実施

2 主な意見と反映状況

〈パブリックコメント〉

分野・頁	意見の要旨	対応
全体・前文 P2～5	鳥取県の魅力をストレートに伝えるキャッチフレーズによるアピール、人口減少時代を明るく生き抜く鳥取県をつくるといった『とっとり元気ビジョン』の提示があるとよい。	本県の強みである「豊かな自然」「人々の絆」「鳥取の時」を柱に、「響かせようトットリズム」をキャッチフレーズとした強みを活かした施策の実施を通じ、「住んで、訪れてよかったと誇れる鳥取県」を目指し、住み慣れた地域で安心して暮らし続け、将来にわたって発展していく活力ある鳥取県をつくる総合戦略内容としている。
1-(2) 農林水産業 P20	県内は70%が森林であり、IJUターンで女性の方にも森林に入ってもらい、第一次産業を女性の力で活性化してほしい。	若者や女性、IJUターン希望者等の林業・木材産業への就業を促進する旨を記載。
1-(2) 農林水産業 P20、P22	農業でも特産物を生産してくれる若者や後継者を育成していくことも重要。漁業就業者も増加していくこと。間伐もしっかりしていくことが国土保全になる。	農業・林業・水産業の新規就業者の育成をはじめ、林業・木材産業の成長産業化について記載。
2-(1) 出 会 い・子育 て P36	各保育所に看護師を配置し、病後児保育室を設けて預けられるようにしてほしい。	病児・病後児保育などの拡充について必要な支援を行うことを記載。

〈パブリックコメント〉

分野・頁	意見の要旨	対応
2-(1) 出会い・子育て P38	核家族では子育ては大変なので祖父母も手伝う体制を取る、地域での見守り活動をどうしてやっていくかが課題。	地域での子育て支援を担う貴重な人材である祖父母世代による育児支援について記載。
2-(2) 人財とっとり P41	子供が本県に郷土愛を持って住んでもらえる教育が必要。	「ふるさと鳥取」に愛着と誇りをもった人材育成に取り組む旨を記載。
2-(3) 支え愛 P54	鉄道とのダイヤ調整でバスの便数を増やしてもらいたい。交通弱者のことも考えないと子育てはできない。	地域のニーズに則した多様な交通サービス（幹線・支線のバス路線の再編、循環型バス、デマンド型バス（予約型乗合バス）、乗合タクシーの導入等）の展開について記載。
3-(1) 移住・定住 P56、P58	若者の移住促進や、県内出身者のUターン策（県内に戻ってきたら償還が一部免除される奨学金制度の創設）なども追記してはどうか。	若い世代をターゲットに豊かな自然環境をはじめとする‘心の贅沢’に裏打ちされた「とっとり暮らし」の魅力発信、県内に就職する大学生等が借り入れた奨学金の返還支援による若者の地元就職、IJU ターン促進の取組について記載。
3-(2) 働く場 P67	ワーク・ライフ・バランスの推進や男性が育児休業しやすい方策をより明記されれば良い。男性の育児休業取得実績の積み上げとともに、行政として男性の育児休業の促進を図っていくと良い。	ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）への理解を進め、男性が育児休業を取りやすい機運を醸成し、男性の育児休業取得への理解促進と意識改革促進について記載。
全体	専門的な用語やカタカナが多く分かりにくい。注釈を入れるべき。	一般的ではないカタカナや英語表記は日本語表記へ修正。 日本語表記とすることに馴染まない表記については、注釈を追加。

〈鳥取創生チーム会議〉

分野・頁	意見の要旨	対応
1-(1) 観光・交流 P18	DMOの構築による観光地域づくりを進めていくべき。	地域の観光づくりの核となるDMOが設置されるよう支援を行う旨記載。
1-(2) 農林水産業 P22 1-(3) エコスタイル P30	全国に先駆けて森林整備に重点的に取り組んでいただいているなか、林産資源の販路等出口対策として木材輸出、木質バイオマス発電計画を進めていく。	林業・木材産業の成長産業化、販路拡大を進めるとともに、木質バイオマスなどの里山が有する地域資源を活用した経済活動を進めていく旨を記載。
2-(1) 出会い・子育て P35	出会いから結婚まで支援する婚活事業の取組を広域で推進してはどうか。	市町村等が行う地域の特色を生かした結婚応援事業の支援を行うほか、広域連携も含めた出会いの場づくりに取り組む旨を記載。
2-(2) 人財とっとり P43、P44	県内大学生の地元就職促進に限らず、若者の就職機会を増やし、県外大学進学者の県内就職率も高めることが重要。	企業や高校、大学等と連携し、学生等の地元進学を促進する旨記載するほか、KPIにおいても「県内大学生の県内就職率」、「県外大学進学者の県内就職率」を掲げ、強気に展開していく。
3-(2) 働く場 P60	現在の商工会連合会会員数の減少は、経営難よりも後継者不足が原因であり、創業と事業承継に重点を置きたい。	市町村・商工団体・産業支援機関等と連携して様々な創業支援を実施するほか、後継者問題によって事業継続に課題を抱える中小企業への事業承継支援を強化する旨を記載。

〈鳥取創生チーム会議〉

分野・頁	提言の要旨	対応
3-(2) 働く場 P62	正規雇用1万人施策で取り組んでもらいたい、雇用の質を上げて欲しい。	非正規から正規雇用への転換による雇用の質の改善、特に若い世代における経済的安定のため、本人の特性、希望に即した形での正社員化を推進していく旨を記載。
3-(3) まちづくり P72	地元には窯がいくつもあり、人間国宝もおられる。全国に例のない工芸村をつくっていききたい。	複数の作家が滞在し、活気ある活動が生まれる工芸アート村の創出を促進する旨を記載。

〈とっとり創生若者円卓会議提言〉

分野・頁	提言の要旨	対応
1-(1) 観光・交流 P14	「見て」「触れて」「体験して」「食す」。これらが一連のものになっていないと記憶に残らない。このことで一日以上の滞在につながる。	着地型メニュー造成や滞在を促進する周遊観光ルートづくりの取組、様々な形で温泉地を楽しむ鳥取ならではの魅力づくりを進める旨を記載。
1-(2) 農林水産業 P26	ブランディング、マーケティングの委託や企業化を進めてみても良い。	高品質な農林水産物のトップブランディングや地理的表示保護制度の活用など、食のみやこ鳥取ブランドを発信していく旨を記載。
2-(1) 出会い・子育て P35	必要なときに婚活イベントなどの情報が届く仕組みが必要。	出会い・結婚を望む若い世代に対してイベント情報の提供を行う旨を記載。
2-(1) 出会い・子育て P35	学校を卒業し、就職先を決めるまでに、結婚時期など自らの将来について真剣に考える機会を設け、将来設計を描くことが必要。	思春期からのライフプラン教育を行う中で妊娠・出産・子育てに関する正しい知識を学ぶ機会を拡充することを記載。
2-(2) 人財とっとり P43	奨学金を借りている大学生は多いが、鳥取県に帰ってきたら返還を免除する制度の創設。 高校に県内全域の求人情報が伝わっていない。県内求人情報をしっかり学校に届ける必要がある。	県内に就職する大学生等が借り入れた奨学金の返還支援による若者の地元就職、IJUターン促進に取り組む旨を記載。 県内企業や高校、大学等と連携した地元企業でのインターンシップ拡充、学生・生徒・保護者への地元企業の就職情報の提供など学生の地元就職を促進する旨を記載。
3-(1) 移住・定住 P56	待機児童がいないといった保育サービスの充実や人柄の良さ、近所の人の子供に声掛けしてくれる点などアピールすべき。	若い世代をターゲットに豊かな自然環境をはじめとする「心の贅沢」に裏打ちされた「とっとり暮らし」の魅力をインターネットを含む多様な媒体を活用して発信する旨を記載。
3-(3) まちづくり P70	まちづくりに繋がる空き家対策を。若者にとっては、友達づくりに繋がる気軽に行ける「たまり場」が必要。商店街には大学だけでなく地域内で交流できるような仕組みがあると良い。	リノベーション手法等による空き店舗等の活用、まちなかの活性化、コミュニティ拠点づくり、若者が集う場所づくりに向けた取組支援について記載。

〈パートナー県政推進会議〉

分野・頁	提言の要旨	対応
1-(2) 農林水産業 P23	食のみやことして、鳥取県の有機農法で栽培された優れた農産品を地元で消費する取組に力を入れてはどうか。	県産農林水産物の利用・消費拡大を目指した地産地消や有機・特別栽培農産物の生産拡大の取組を推進していく旨を記載。

〈パートナー県政推進会議〉

分野・頁	提言の要旨	対応
1-(3) エコスタイル P30	自然体験活動を行っている「森のようちえん」が全県に広がったり、似たような活動が広がることを期待。	「子どもたちが鳥取の山や海などの自然の恵みの中で、学び、遊びきる、体験」を満喫できる取組の推進について記載。
2-(1) 出会い・子育て P35	婚活で成婚につながるための仲人の様なサービスが必要。	1対1の出会いの場となる「とっとり出会いサポートセンター（仮称）」の設置など成婚率の高い婚活応援の展開について記載。
2-(3) 支え愛 P52	地域の活性化には心の豊かさ、世代間での交流を深めることが必要。	世代間交流ができる多機能コミュニティ拠点（小さな拠点）、地域住民の支え愛活動の拠点となる「共生ホーム」の全県展開加速化について記載。
3-(2) 働く場 P62	鳥取で働き、幸せな家庭を築こうとする希望が持てるような働く場のある県となることが大切。	非正規から正規雇用への転換による雇用の質の改善、特に若い世代における経済的安定のため、本人の特性、希望に即した形での正社員化を推進していく旨を記載。
3-(1) 移住・定住 P56	医療・福祉・教育をからめた鳥取県版のCCRCを全県的に広げてはどうか。	アクティブシニア（元気な高齢者）移住の受け皿となるCCRC（生涯活躍のまち）の実現に向けて効果的な施策を進めることを記載。

〈県政アドバイザースタッフ会議〉

分野・頁	提言の要旨	対応
1-(2) 農林水産業 P22	荒れた森林の再生や作業道整備、県産材輸出など林業振興を図っていくことが必要。	木材生産量の倍増、持続可能な森林経営、高付加価値製品の販路拡大について記載。
1-(2) 農林水産業 P23	陸上養殖が成功しているので、こういう取組をしっかりと伸ばしていくべき。	栽培漁業や養殖業による「つくり育てる漁業」を推進する旨を記載。
2-(2) 人財とっとり P41	小中学校で県職員による出前授業を実施するなど、ふるさとを誇りに思えるような教育を小中学校でやっていくことが必要である。	「ふるさと鳥取」に愛着と誇りをもった人材育成に取り組む旨を記載。
3-(2) 働く場 P60	東京に拠点がある大企業の鳥取県への本社移転などの企業誘致を進めるべき。	大都市圏からの本社機能等の移転、中山間地への企業誘致など戦略的な企業立地の推進について記載。